

2022年6月27日 発行

ドライビングシミュレーター搭載車による安全運転診断

担当：橋本・布上・島田

新型コロナウイルス感染症流行でセカンドライフの行事企画が難しい中、感染対策が十分取れる事を一番に考え、5月と6月に行事を企画しました。6月の行事は運転免許保持者に限定されましたが、5月の道交法改正で75歳以上の高齢者ドライバーに一定の違反歴があれば実車試験が追加されます。そのため会員に今後も安全に車を運転して頂こうと、身近で借りられる「ドライビングシミュレーター搭載車両 きずな号」を借り、映像での運転感覚体験を計画しました。

液晶3画面のモニターに映る画像を見ながらハンドルとアクセル・ブレーキを操作し走行、動体視力・注意、配分力・判断力・記憶力・危険予測・運転操作・法令順守についての診断がされます。(体験者の感想などは中国新聞の記事に) なお申込者は16名で、当日の参加者は15名でした。当初、無料枠で申込してましたが抽選で外れ有料となり、そのため参加費を頂きました。行事終了後、無料枠の団体がコロナの関係でキャンセルされた事が判明し、我々に無料枠が回って来て徴収の会費は返金となりました。

六月十二日 (日曜日)

中国新聞朝刊 (備後版29ページ) 記事

改正道交法 75歳以上・違反歴で実車試験義務化

高齢ドライバー技術確認 福山で催し相次ぐ

福山市内で今月、高齢ドライバーが運転技術や身体能力をチェックする催しが相次いでいる。5月の改正道路交通法の施行に伴い一部の高齢ドライバーに免許更新時の実車試験が義務化され、関心が高まる。関係者は「自分は大丈夫と過信せず、運転の癖や体の変化を把握してほしい」と呼びかける。

(滝尾明日香)

福山市緑町の緑町公園で8日、企業・団体の退職者たちでつくる「備後セカンドライフくらぶ」(近藤茂久会長)が、会員向けの安全運転診断会を初めて開いた。JA共済連(東京)から運転シミュレーターの搭載車両を有料で借り受け、会員約20人がハンドルやアクセル、ブレーキの操作を確認した。

3面あるモニターの指示を読み取って動体視力をチェックし、道順を覚えて記憶力を確かめた。講師役の山陽自動車学校(同市蔵王町)教育部の山岡邦幸次長から「前だけを見ず、周囲の状況にも注意して」と声を掛けられ、子どもの飛び出し予測など事故を起こしやすい場面も体感した。

講習を終えた参加者は「夜間や雨天時は運転せずタクシーを使う方がいい」とモニターを見ながらハンドル操作などを確認する参加者(手前)たち

「運転免許証の返納を考えないといけない」と感想を伝え合い、福山東署員の助言も受けた。同くらぶの近藤会長は「事故を起こしてからでは遅い。危機感を共有できた」と話した。

改正道交法では、一定の違反歴がある75歳以上に「運転技能検査(実車試験)」が義務化された。日本自動車連盟(JAF)と全日本交通安全協会も5日、50歳以上を対象に実車を運転する講習会を兵庫県で初めて開き、6人が参加した。

福山市内では昨年、65歳以上の運転する車やバイクが主な原因になった事故が221件発生。ことし5月13日には、同市神辺町川北の国道486号交差点に赤信号で進入した軽乗用車と大型トラックが衝突し、軽乗用車の70代の夫婦が亡くなった。山岡次長は「まず身体能力の衰えをしっかりと自覚する必要がある。自身の変化に目を向けて」と強調する。



「きずな号」



安全運転診断後の記者からの取材



東署広島警部補からの交通指導